卷十三戀歌三　四十五首　或本歌一首　（清輔本歌總數六十二首）
卷十四戀歌四　六十二首　或本歌一首　（總　數　七十一首）
卷十五戀歌五　七十四首　或本歌五首　（總　數　八十二首）
卷十六哀傷歌　二十七首　（總　數　三十四首）
卷十七雜歌上　五十九首　（總　數　七十首）
卷十八雜歌下　四十六首　（總　數　六十八首）
卷十九短歌一首、俳諧歌四十四首、長歌五首　（總數　六十八首）
卷二十大御所御歌　十七首　（總　數　三十二首）
の總歌數四百八十七首。

尊經閣本と對校すると注文に相應の異同を見、同本が清輔自筆でなく一轉寫本である事が判明する。眞名序の次には各卷句數、作者句數を注し、「此本從坊御時云々」の第一奥書は佚してゐるが、「以若狹守通宗朝臣自筆本」云々にはじまり「至今度ハ深秘苔中、死後可左右耳」に了る第二奥書は一面八行書二面に亙つて全文が殘つてゐる。それに次いで尊經閣本にない左の奥書がある。（圖版第十下）

嘉應元年十月日書寫之」依仰雜筆等如本書付了、」老眼之間筆跡彌狼藉、後見」有恥〻〻」　散班清輔

花園院宸記（伏見宮本）　四六卷（昭和二十五・二購入）
宸翰、歴史篇八一頁參照
伏見院宸記（伏見宮本）　一〇卷（昭和二十五・二購入）
宸翰、歴史篇八一頁參照

（伊地知鐵男　記）

貴重圖書の飜刻、出版

傳來及び内容上よりみて、日本古文化の正統的史料を網羅してゐる圖書寮本は、當然永久に保存すべきものであり、書陵部は保存圖書館的性格をもつものである。しかし、保存は利用のための保存であつて、單なる死藏であつてはならない。而して利用閲覽には必ず消耗を伴はざるを得ない。この利用による消耗と永久的保存の相反する二つの目的を調整するために、利用面で閲覽者を制限すると共に、コロタイプによる複製や飜印出版が考へられる。

また、一方この複製・飜印は、遠隔な地方に在つて、直接圖書寮本を閲覽利用することの出來ない研究者の利用に資し得ると共に、孤本或ひは源流的祖本たる圖書寮本の不時の散逸に備へるためにも行はれねばならない。

現在、出版事情の窮迫、就中學術書出版の困難性は周知の事實である。しかし當部に於ては、前述の目的に基き、毎年度相當額の豫算を計上してコロタイプ複製・飜印を行ひ、全國の大學・圖書館及び專門的研究者等に寄贈すると共に、ものによつては市販してゐる。

以下、現在迄の出版物（但し、終戰前はコロタイプ複製に限る）と、宮内省藏版圖書を擧げれば、次の如くである。

看　聞　御　記　コロタイプ　四三軸　一〇〇部　便　利　堂
同　右　飜　印　四四冊（内解説一冊）同右　同　右
（内容）後崇光天皇の宸筆にかかる日乘で、應永二十三―文安五年の四十一卷、並びに別卷二卷、舊伏見宮相傳本（昭和七・一二發行）

群　書　治　要　コロタイプ　四七軸　八〇部　大塚巧藝社
同　右　飜　印　四八冊（解説一冊）二四〇部　同　右
（内容）唐の太宗の世、秘書監魏徵等奉勅撰の治術の書、金澤文庫本（昭和一六・一二發行）

大正天皇御製歌集　木　版　二　冊　五〇〇部　便　利　堂
大正天皇御製詩集　同　右　同　右　同　右　同　右
（昭和二〇・一一發行）
中　右　記　コロタイプ　一軸（附解説一冊）一〇〇部　美術書院
（內容）中御門右大臣宗忠の日乘のうち、天仁二年十月―十二月の記事で、平安鎌倉期の寫、伏見宮本一軸と共に、同記の現存最古寫本（昭和二〇・一二發行）
麓　木　鈔　コロタイプ　一冊（解説一冊）一四〇部　便　利　堂
（內容）靈元天皇親撰宸筆にかかる和歌聞書、禁裏本（昭和二二・四發行）
圖書寮典籍解題　文学篇　活版　一　冊　五〇〇部（市販一〇〇部）國立書院
（內容）第一　勅撰和歌集、第二　歌學歌論、第三　私家集、第四物語、第五　源氏物語、第六　日記紀行、第七　年中行事以下典籍解題は、圖書寮本をテーマ別、系統的に解題し、他本を略述し併せてそのテーマの史的解說を施したもの。（昭和二三・一〇發行・三五〇圓）
四分律音義　コロタイプ　一　冊　一〇〇部　便　利　堂
（內容）四分律經文中、難解の字句名目を摘出して、音反訓義を施したもの、一切經玄應音義を倭風化した形をとつてゐる。平安初期の寫（昭和二三・一一發行）
桂宮本叢書第十一卷（再昌草一）　活　版　一冊　一〇〇部（市販四〇〇部）養德社
（內容）三條西實隆の詠歌中、明應十―永正六年の分を收む。以下桂宮本叢書は、禁裏本桂宮本の中、私家集、物語、連歌の未刊本を飜刻したもの（昭和二四・三發行）
爲兼和歌抄　コロタイプ　一　冊（解説一冊）一八〇部　便　利　堂
（內容）京極爲兼の歌論書、禁裏官庫舊藏の孤本（昭和二四・七發行）
文館詞林第六百六十八　コロタイプ　一　軸（解説一冊）一〇〇部　便　利　堂
（內容）漢より唐初に及ぶ詩文の類聚、支那では佚書とされたもの、高野山舊藏弘仁本の零卷一軸（昭和二四・七發行）
圖書寮典籍解題　歴史篇活版　一　冊　五〇〇部（市販三〇〇部）養德社
（內容）第一　撰史、第二　日記々錄　第三　古文書、第四　系圖附錄書誌學（昭和二五・二發行・五〇〇圓）
圖書寮典籍解題續文学篇　活版　一　冊　五〇〇部（市販一〇〇部）養德社
（內容）第一　萬葉集、第二　私撰歌集、第三　歌合、第四　古今傳受、第五　連歌（昭和二五・三發行・五〇〇圓）
桂宮本叢書第十五卷（とはすがたり）活版一冊　一四〇部（市販三六〇部）養德社
（內容）中院雅忠女二條の手になる回想隨筆、孤本で增鏡の粉本に擬せられるもの（昭和二五・三發行・三〇〇圓）
類聚名義抄　コロタイプ　一　冊（解説一冊）八〇部　便　利　堂
（內容）類聚名義抄出典索引參照（昭和二五・六發行）

宮內省藏版圖書

埋木廼花　木版　高崎正秀編　明治九・九出版　二冊
從駕日記　十符の菅薦　木版　近藤芳樹編　〃　九・二出版　四冊
明治孝節錄　木版　近藤芳樹編　〃　一〇・二出版　四冊
新未來記　木版　近藤眞琴譯　〃　一一・三出版　二冊
陸路廼記　木版　近樹芳樹著　〃　一三・六出版　二冊
千種廼花　木版　高崎正風編　〃　一三・六出版　六冊
幼學綱要　木版　元田永孚著　〃　一四・八出版　七冊
美登毛乃數　木版　池原香穉著　〃　一五・二出版　五冊
報德記　活版　富田高慶著　〃　一六・二出版　八冊
隨鑾紀程　木版　川田剛撰　〃　一七・四出版　八冊
扈蹕日乘　木版　兒玉源之亟著　〃　一八・四出版　四冊
蠶事摘要　活版銅版　佐々木長淳調　〃　一八・五出版　一冊

神武必勝論　石膏模版　平野國臣著　明治三〇・五出版　三冊
婦女鑑　木版　西村茂樹編　〃三〇・七出版　六冊
圖書寮記錄　活版　圖書寮編　上編明治二〇・一二出版　中編同年一二出版　六冊
須多因氏講義　活版　有賀長雄編　明治三・七出版　一冊
賀知章書今文孝經榻本　木版　〃三四・六出版　一帖
萬葉集古義全集　木版　鹿持雅澄著　自明治二四・一〇出版　至〃二六・一二出版　一冊
開國起源　活版　勝安芳編　明治三六・一出版　三冊
殉難錄稿　活版　川田剛等編　自明治二六・三出版　至〃四〇・八出版　五冊
日本大辭林　活版　物集高見編　明治三七・五出版　一冊
山田長政事蹟合考　活版　寺崎遜之譯述　〃三九・五出版　一冊
熾仁親王行實　活版　杉孫七郎等編　〃三一・七出版　一五冊
嘯月集　木版　山階宮晃親王遺稿　〃三四・二出版　一冊
東瀛珠光　寫眞版　自明治四一・一出版　至〃四二・三出版　五冊
倭漢朗詠集　寫眞版　明治四〇・二出版　一帖
宋柘蘇東坡宸奎閣碑　一帖
宋柘高宗佛頂光明塔碑　〃四三・五出版　一帖
三條實美公年譜　活版　巖谷修等編　〃三四・一〇出版　三〇冊

氣象年報　活版　山階宮家編　自明治三九・八出版　四冊
岩倉公實記　活版　多田好問編　至〃四二・八出版　明治三九・九出版　二冊
孝明天皇紀　活版　德大寺實則等編　首卷上下二冊、本紀（二三〇卷）二七冊、附圖二帖　明治三九・一〇出版　大正四・一一重刊　二冊
帝範　木版　細川潤次郎補訂　同右　二冊
臣範　木版　同右　二冊
明治天皇御集　木版　宮內省臨時編纂部編　大正八・三出版　三冊
昭憲皇太后御集　木版　同右　〃一〇・三出版　三冊
大正德行錄　活版　宮內省編　〃一四・五出版　二冊
神なからの道　活版　寬克彥述　皇后宮職編　〃一四・六出版　二冊
宸翰集　寫眞版　昭和二・一三出版　一帖三卷三冊五〇冊
皇室略牒　活版　圖書寮編　明治三三・三出版　三冊
帝室圖書目錄　活版　圖書寮編　大正五・一三出版　一冊
帝室和漢圖書目錄　活版　圖書寮編　〃一五・七出版　一冊
增加帝室和漢圖書目錄　活版　圖書寮編　昭和五・一三出版　一冊
圖書寮漢籍善本書目　活版　圖書寮編

疎開から展覽會へ

圖書寮書庫は昭和三年新築された。その後昭和十七年非常時局に遭遇するや、圖書保管の萬全を期し、都下南多摩郡多摩監區內に非常書庫三棟を造築、二棟に圖書寮保管の御物圖書・貴重圖書・準貴重圖書等約十萬點、貴重公文書類二萬三千點、其の他諸陵寮保管に係る圖書物件等を移置し、一棟は博物館の所用とし同館の貴重物件を格納した。又昭和十九年三月、內閣文庫はその保管に係る貴重圖書約七萬五千點を圖書寮に寄託、右非常書庫に疎開格納した。

然るに戰局の進展に伴ひ、都內の被害漸次增大するに鑑み、本寮殘置圖書を撰別し、重複圖書・新寫本・活字本を除く約十五萬點並に非常書庫格納中の公文書類を昭和十九年十月栃木縣下那須御用邸に移置した。次いで昭和二十年五月非常書庫格納の圖書寮圖書、內閣寄託圖書・那須御用邸移置本中の良書を長野縣下沓掛町に再疎開し、博物館は福島縣下に移置して保管の完璧を圖つた。

一方本寮分課中、編修に關する事務は昭和十九年五月南多摩郡橫山村